

SPコミュニティ・第3回学認SP研究会 SPコミュニティの発展

NII オープンフォーラム2025

2025.6.17

国立情報学研究所

トラスト・デジタルID基盤研究開発センター

学術基盤推進部 学術基盤課 学術認証推進室

鈴木 彦文

学認参加の動機

1. 学認への参加対象となる機関が学認に参加する必要がある出てくる事象の発生(例えば RDM や OA など学認SPの利用が必須になるなど)
2. 機関が学認に参加する意味を見出せる学認 SP(Service Provider)の拡充
3. 機関が学認に参加することでコスト削減が実現
4. なんらかの形で学認に関わろうとする・参加しようと希望する機関・プロジェクトへの対応・支援



**2. を達成するため、学認 SP 改良・開発・開拓・発掘
学認SPコミュニティの充実がポイントの一つ**

学認のサービスプロバイダ情報の不足

学認を使いたいけど・・・

- どんな良いことがあるのかわからない・・・
- 維持費用や手間がわからない・・・
- なんだか複雑そう・・・
- eduroam とか便利そうだと聞いたことがある
などなど

さまざまな学認・認証に関する情報交換をカバーするのが SP コミュニティ・学認SP研究会です。

SP に対する機関の期待

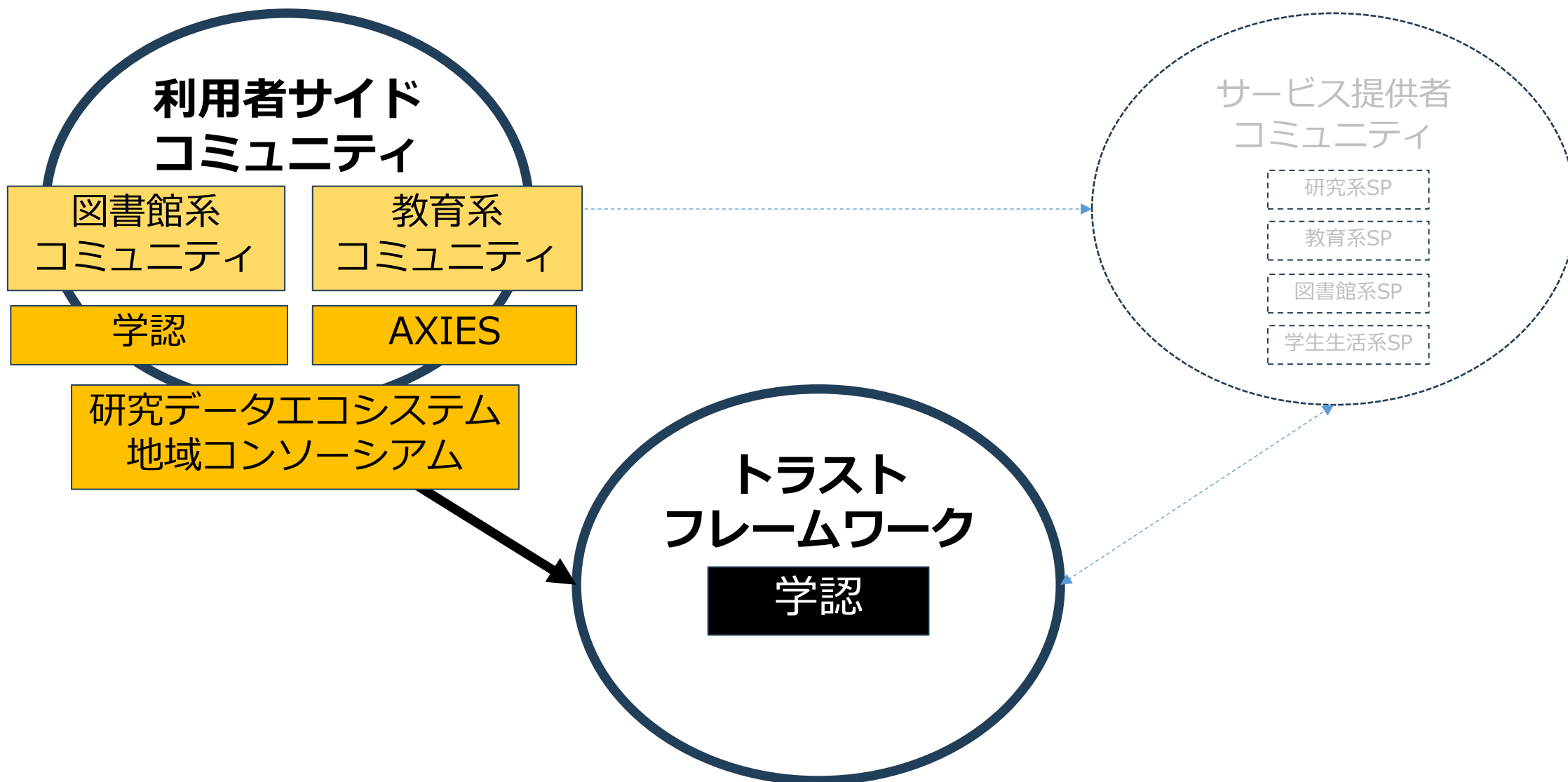
サービスが向上する・新たなサービスが生まれることによって

- 受験生が増える・優秀な学生が増える
- 教育の質が向上する・研究が促進される
- 関係しそうな事柄のコストが下がる・同等のコストでより高機能・高性能になる
- その他なんでも良いので大学に貢献できる

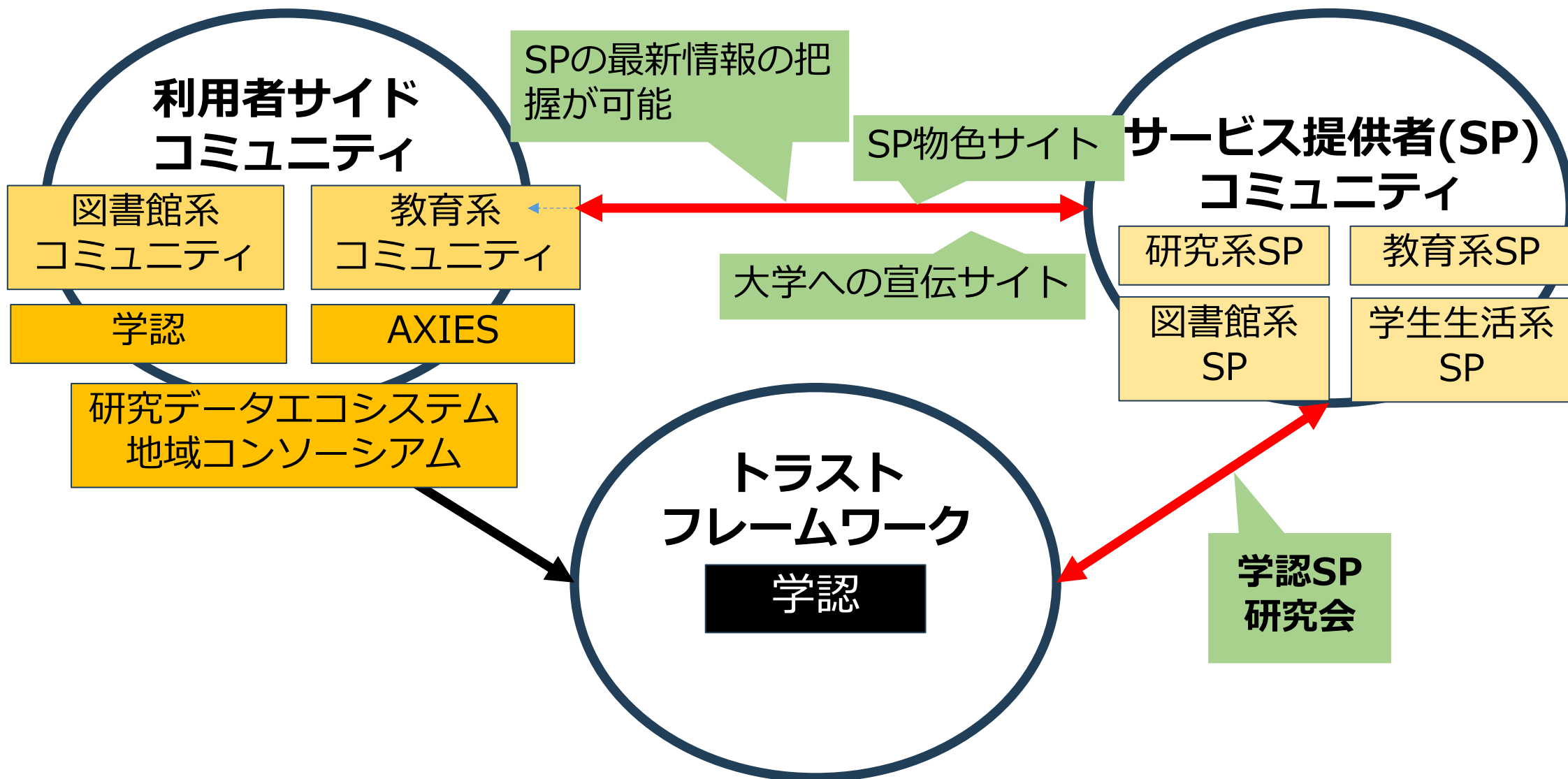


**学認 SP だけでなく大学のような機関へ売り込む基本
（「先端的な取り組み」では響かない）**

サービスプロバイダコミュニティの不在

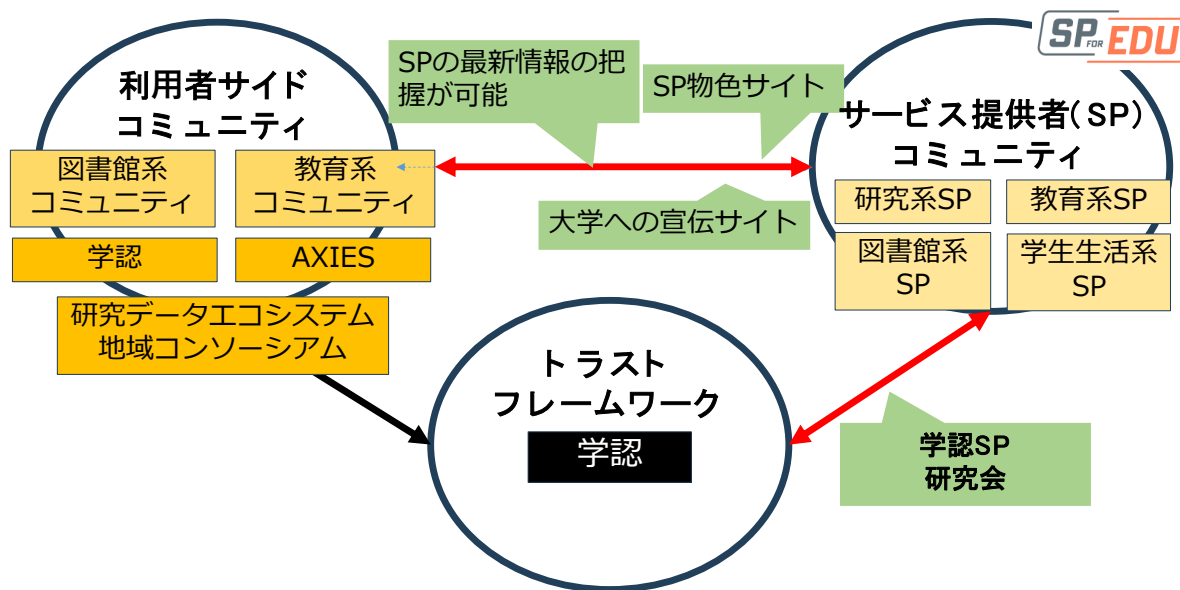


サービスプロバイダコミュニティの不在



SP(サービスプロバイダ)情報の交流・開発・開拓

- 機関におけるさまざまなサービスの構築・運用に携わる教員・職員、およびサービス提供者が一堂に会する
- SP構築や運用に携わる実践的な知識とノウハウを共有
- オンライン学習、リモートアクセス、コミュニケーション、キャリア支援などの幅広い分野にわたる具体的な事例を紹介
- 参加者同士が学び合い、機関のサービス向上に貢献するためのコミュニティを形成
- コミュニティ専用の外郭団体を立ち上げポータルサイトや交流イベントを運営



サービスプロバイダ（SP）コミュニティサイト 開設！



■ サイトの内容

- 大学・研究機関・企業等による **SP運用のユースケース紹介**
- SP構築・維持に関する **認証技術・運用ノウハウの解説**
- **導入事例・課題・成功ポイント** を分かりやすく整理

■ こんな方におすすめ

- **経営層・企画部門**：情報システムの導入や方針検討の参考に
- **技術職・システム管理者**：実務に役立つ設定例や技術情報
- **教職員・研究者・学生**：サービス利用や連携先の理解を深めたい方
- **SP開発・運用に関わるすべての立場の方**

■ "SPをつなぐ、知見をひらく"

技術と組織を越えて、SPの持続可能な運用と連携を支える知のハブへ。

👉 サイトはこちら → <https://spedu-catalog.jp/>

SPカタログサイト



🔍 キーワードを入力

サービスプロバイダ

ユースケース

インフラサービス

インテグレーター

コミュニティ

SPカタログ

学認に参加して大学DXを推進しよう

お知らせ

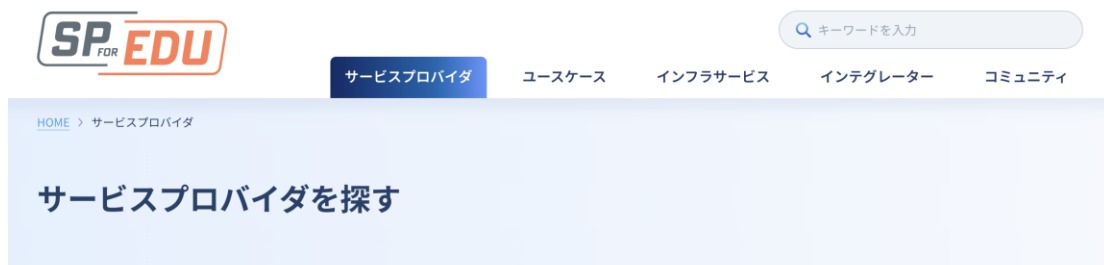
2025/05/23 SPカタログへようこそ！

[お知らせ一覧へ >](#)

<https://spedu-catalog.jp/>



SPなどの紹介ページ



The screenshot shows the main navigation bar with the SP FOR EDU logo on the left and a search bar on the right. Below the logo is a horizontal menu with links: サービスプロバイダ (Service Providers), ユースケース (Use Cases), インフラサービス (Infrastructure Services), インテグレーター (Integrators), and コミュニティ (Community). The main content area has a heading "サービスプロバイダを探す" (Find Service Providers) and a list of providers below.



This section shows a detailed view of the search results for "サービスプロバイダ". On the left is a sidebar with filters for "プロバイダ名" (Provider Name) and "検索条件" (Search Conditions). The main area displays three provider cards: "学認 LMS" (GakuNin LMS), "しぼすけ" (Shibosuke), and "GakuNin RDM". Each card includes a logo, name, description, and a "詳細を見る" (View Details) button. A "Webex" meeting icon is also visible in the top right corner of the RDM card.



The screenshot shows the "GakuNin RDM" service page. It features the SP FOR EDU logo in the top left and a breadcrumb trail: HOME > サービスプロバイダ > GakuNin RDM. The main content area displays the "GakuNin RDM" logo and the text "国立情報学研究所" (National Institute of Informatics).

概要

研究データ管理基盤 GakuNin RDM は、研究データの「保存」「管理」「共有」「証跡管理」をサポートします。

必要なデータをどこに保存したか分からない、共有の手順が煩雑、有用な記録が残らない…などの悩みを全て解決し、研究のはじめから終わりまで、研究データ管理はGakuNin RDM 一つで完結することができます。

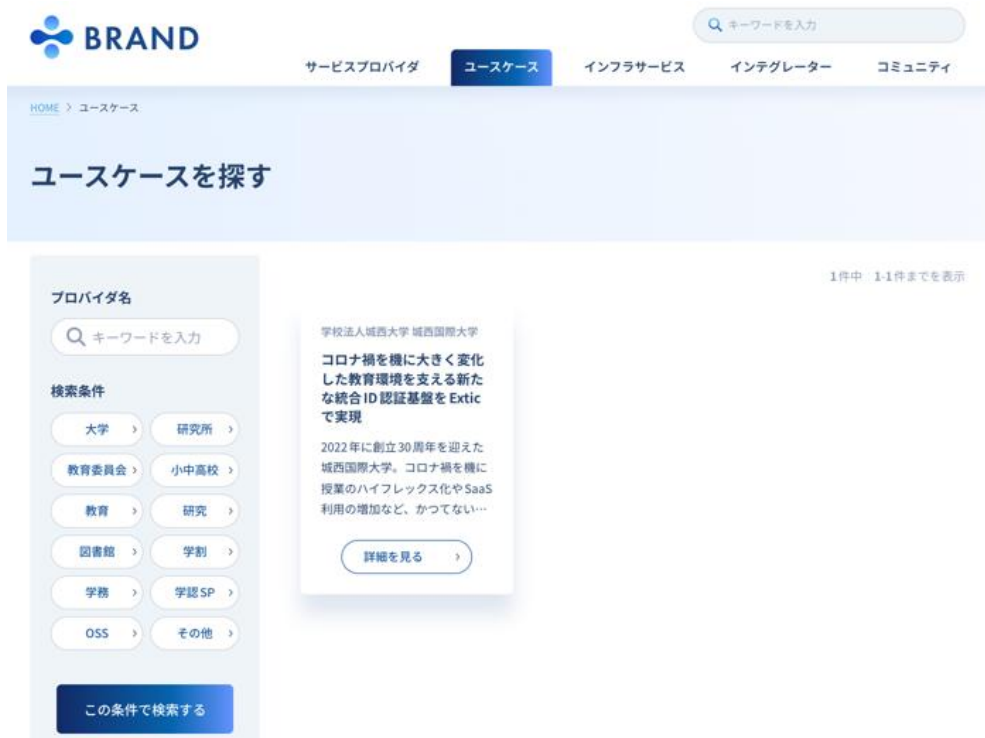
- 研究データの操作履歴、共有記録、バージョン管理を自動で可視化
- チームでの共同研究もスムーズに：複数機関間で安全な連携が可能
- データにメタデータを付けられるから、あとの再利用や公開もラクに
- 学認でログイン、クラウドサービスなので、どこからでもアクセス可能
- 国立情報学研究所が開発・運営する研究者のための安心インフラ
- 導入支援・サポートも充実。多くの大学・研究所がすでに活用中

また、我が国の科学技術政策において、AI・データ駆動型研究を推進するための中核的なプラットフォーム「NII研究データ基盤（NII Research Data Cloud：NII RDC）」の構成要素にも位置づけられています。

サービスURL：<https://rdm.nii.ac.jp/>

サービス詳細：<https://support.rdm.nii.ac.jp/>

ユースケースの紹介



The screenshot shows the homepage of the SP Catalog Site. The header includes the BRAND logo and navigation links: サービスプロバイダ, ユースケース (highlighted), インフラサービス, インテグレーター, and コミュニティ. A search bar is present with the text 'キーワードを入力'. Below the header, the main content area is titled 'ユースケースを探す'. On the left, there is a sidebar with 'プロバイダ名' (Provider Name) and '検索条件' (Search Conditions). The '検索条件' section includes buttons for various categories: 大学, 研究所, 教育委員会, 小中高校, 教育, 研究, 図書館, 学割, 学務, 学認 SP, OSS, and その他. A blue button at the bottom of the sidebar says 'この条件で検索する'. The main content area displays a search result for '学校法人城西大学 城西国際大学'. The result includes a title 'コロナ禍を機に大きく変化した教育環境を支える新たな統合ID認証基盤を Extic で実現' and a brief description. A button '詳細を見る' is visible at the bottom of the result card.



The screenshot shows the 'Extic' case study page. The header is identical to the homepage. The main content area is titled 'コロナ禍を機に大きく変化した教育環境を支える新たな統合ID認証基盤を Extic で実現'. Below the title, it lists the provider '学校法人城西大学 城西国際大学' and the date '2025/02/19'. The main text describes the university's 30th anniversary and its decision to adopt Extic to support a new integrated ID authentication system. The text mentions the university's location in Chiba and Tokyo, its various faculties, and its commitment to international society. It also mentions the university's decision to adopt Extic to support a new integrated ID authentication system. The text ends with the company name 'エクスジェン・ネットワークス株式会社'.

目次

- ・システムごと、手動でのID管理で高まる業務負荷 コロナ禍の環境変化を機に認証基盤の刷新を決断
- ・機能・連携・操作性の高さと文教での豊富な実績 対応姿勢も評価し Extic の採用を決定
- ・アセスメントで理想の姿を定め、基盤構築と各システムとの連携作業を実施

SP に関わるプレイヤー

SP を開発・構築し維持するベンダー・研究者・職員・学生
ベンダー（企業）

- 技術的専門性を活かし、安定したサービス提供基盤を設計・構築
- セキュリティ対策やパフォーマンス最適化など、運用面でも重要な役割を担う

研究者

- 新しい技術要素（認証方式、アクセス制御など）をSPに応用
- 学術的知見をもとに、先進的なSPの設計や評価を行う

大学職員

- 学内システムとの連携調整、ポリシー準拠の確認など実務を担当
- 安定運用のための監視、利用者対応など日常的な運用を支える

学生

- 開発・運用補助を通じ、実践的な経験を積む場としてSPに関与
- UI/UX 改善や新機能の提案など、柔軟なアイデア提供の担い手

SP に関わるプレイヤー

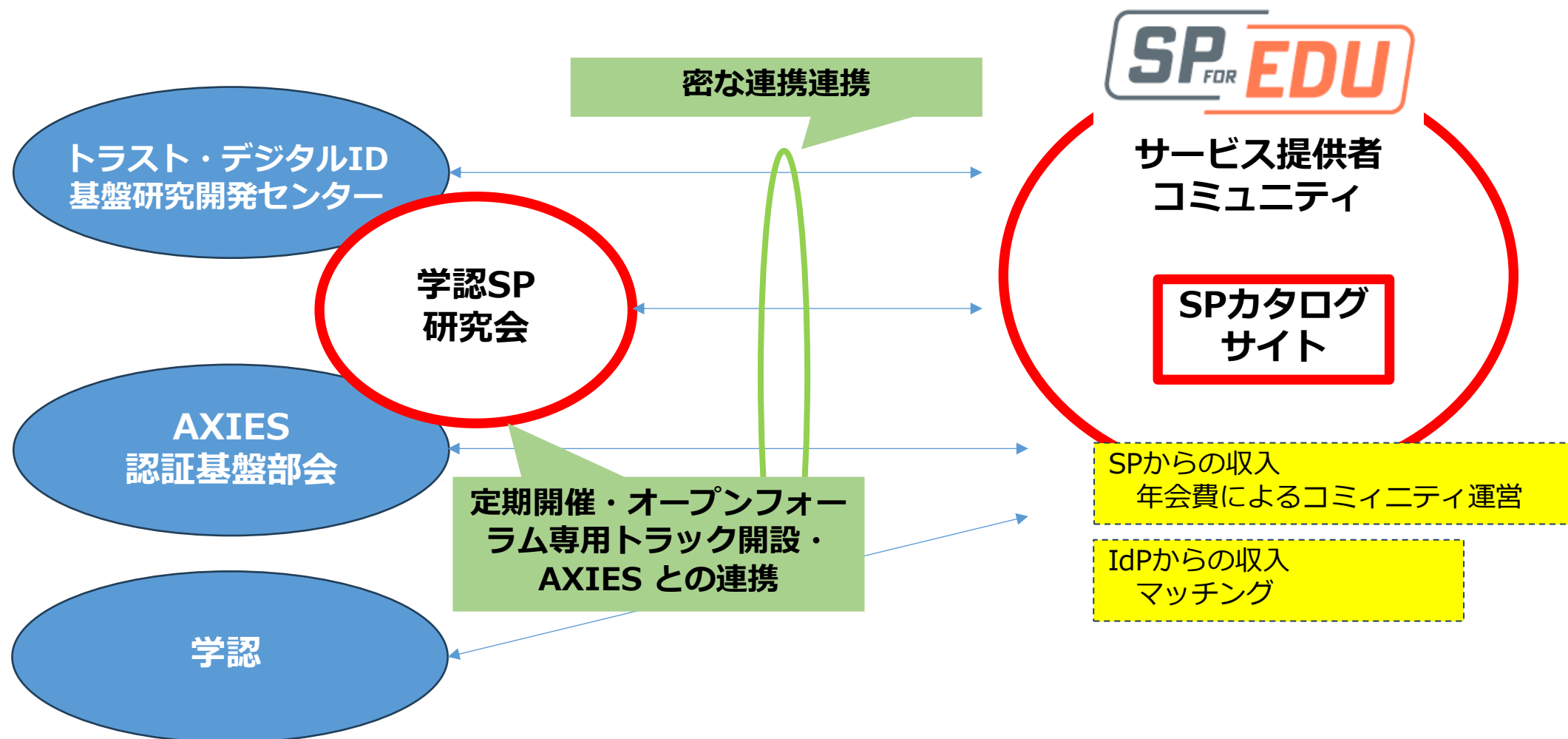
SP を開発し維持する大学関係者

- 大学内で独自にSPを開発・維持しているケースも多い。
- 学術用途に特化した機能設計や、他大学との連携に対応する柔軟な運用が求められる。
- 制約ある中でも、高い可用性・セキュリティを確保するために日々工夫が重ねられている。

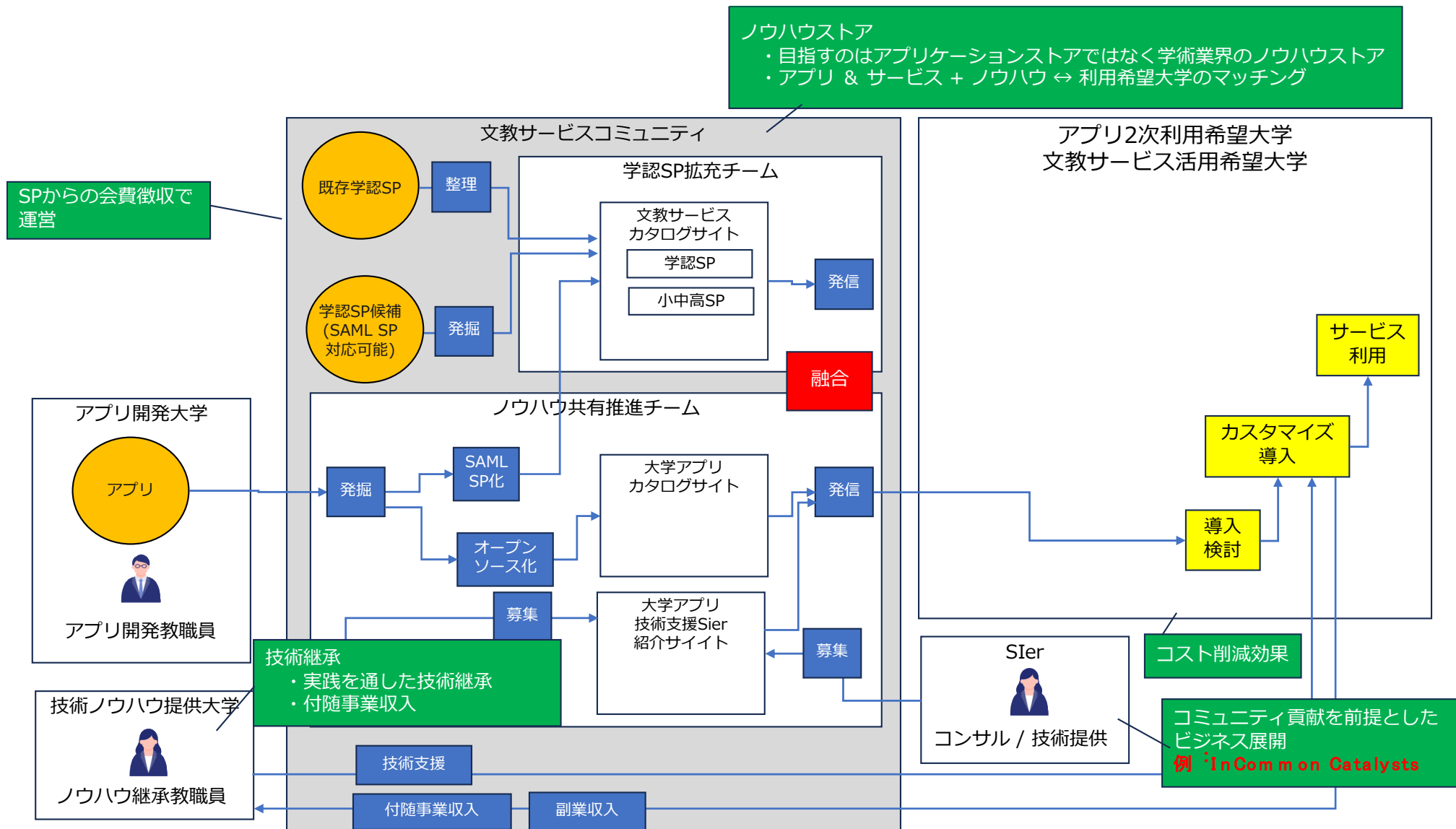
SP の利用者である研究者・職員・学生

- 論文投稿、研究データへのアクセス、学術ポータルなどにSPを活用。
- 利用にあたり、認証・権限管理の理解が求められる場面も。
- eラーニング、成績確認、就職支援サービスなど、多様な学内外サービスに日常的にアクセス。
- SPを意識せずに利用していることも多いが、適切な使い方を学ぶことが重要。

SP コミュニティを NII が主導して形成



SP 開発・運用の成果を共有する仕組み

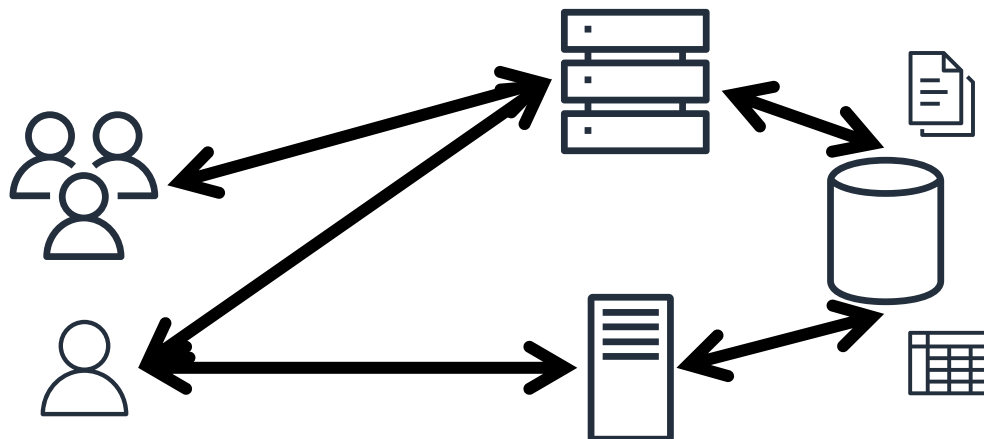


学認SPコミュニティアイデアノート1

研究

- 機関共有の計算資源・データベース
- 大学ローカルの計算資源
- プロジェクト拡大による外部連携の必要性

複数の研究者が効率的にデータ解析や計算を行う。大学ローカルのデータベースや計算資源も重要なリソースとして、研究プロジェクトや研究チームにとっては不可欠。

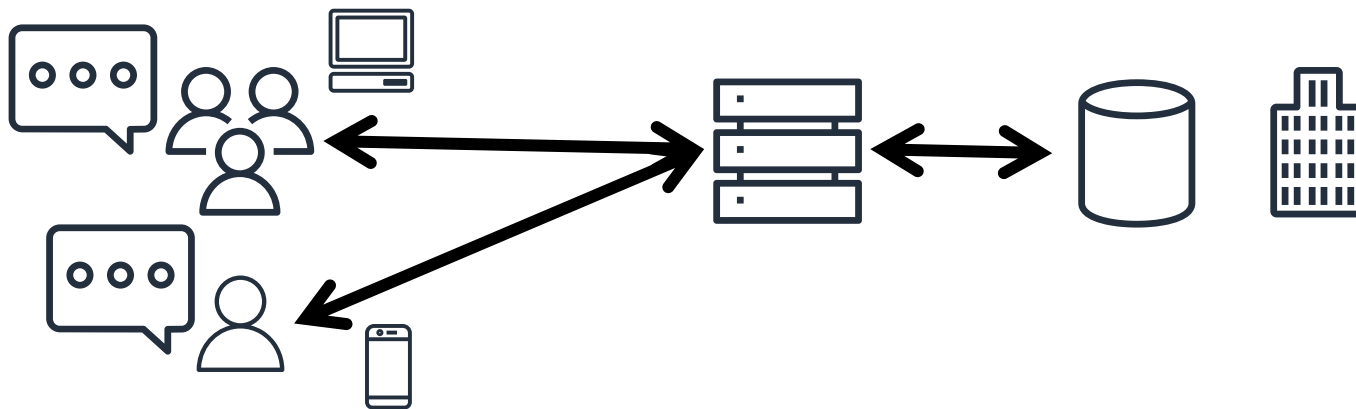


学認SPコミュニティアイデアノート2

教育

- LMS は重要なSP(より利便性・教育効果の高いSP)
- LMS ではカバーできない領域のSP考案
- 小中学校・高校にもリーチできないか

リモート学習やハイブリッド型の授業スタイルが普及する中、より柔軟でアクセスしやすい学習管理システムや教育リソースを提供することにより、幅広い層の学生に対応。教育の現場をさらに多様化させ、質の向上に寄与。

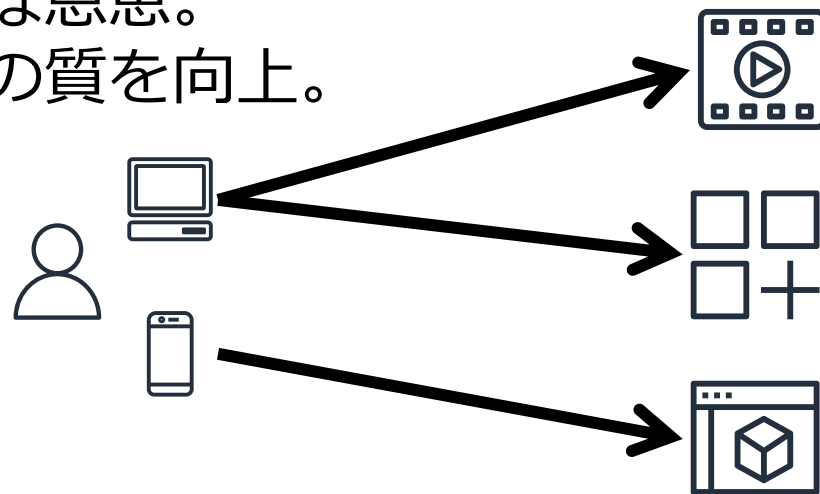


学認SPコミュニティアイデアノート3

学生生活支援

- 割引などの学生生活全般をサポート
- クラウド利用料・プログラミング環境の提供
- 娯楽施設など遊興・趣味に関する割引(サブスク含む)

飲食店や映画館、書籍購入、さらには旅行やイベント参加など、学業以外の部分でも大きな恩恵。
学生生活全体の質を向上。

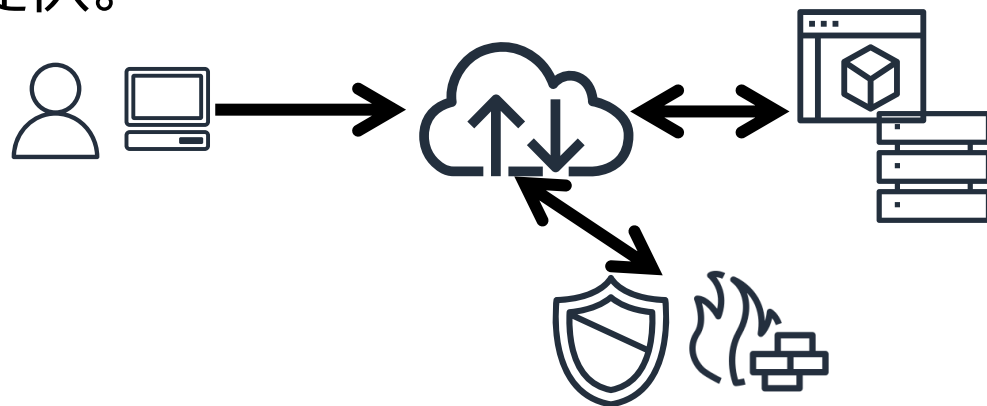


学認SPコミュニティアイデアノート4

セキュリティ

- ネットワークでカバーするのではなく個々の教職員学生に対してのサービス
- 認証ネットワークの拡張(認証ネットワーク)
- ゼロトラストネットワーク(SASEなど)

認証の最新技術を取り入れ、個々のユーザーに対する高度なセキュリティサービスを提供することで、多様化した教育環境に対応しつつ、安全な学習・業務環境を提供。

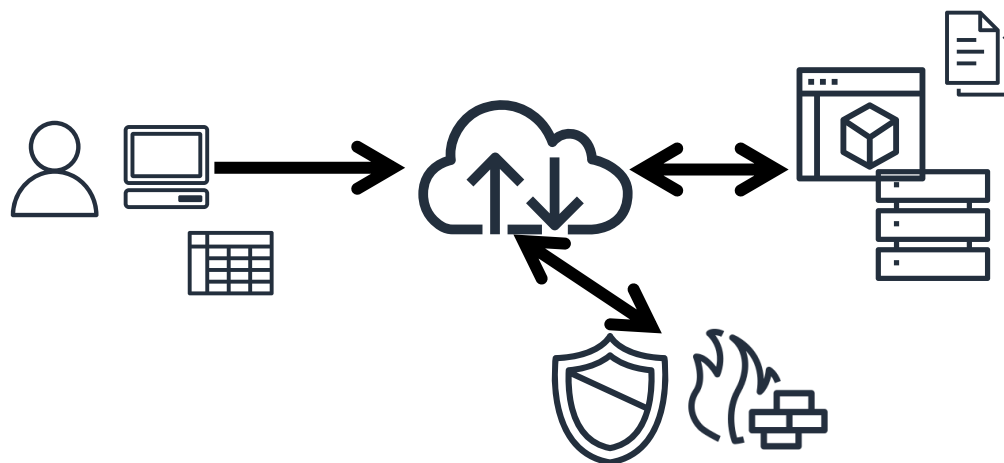


学認SPコミュニティアイデアノート5

コンプライアンスの遵守

- 研究データの取り扱い
- 成績などの個人情報や機関内情報の取り扱い

研究データや個人情報の取り扱いにおいて、コンプライアンスを遵守したセキュリティ対策や管理システムを提供することで、教育機関や研究機関の信頼性を支える。

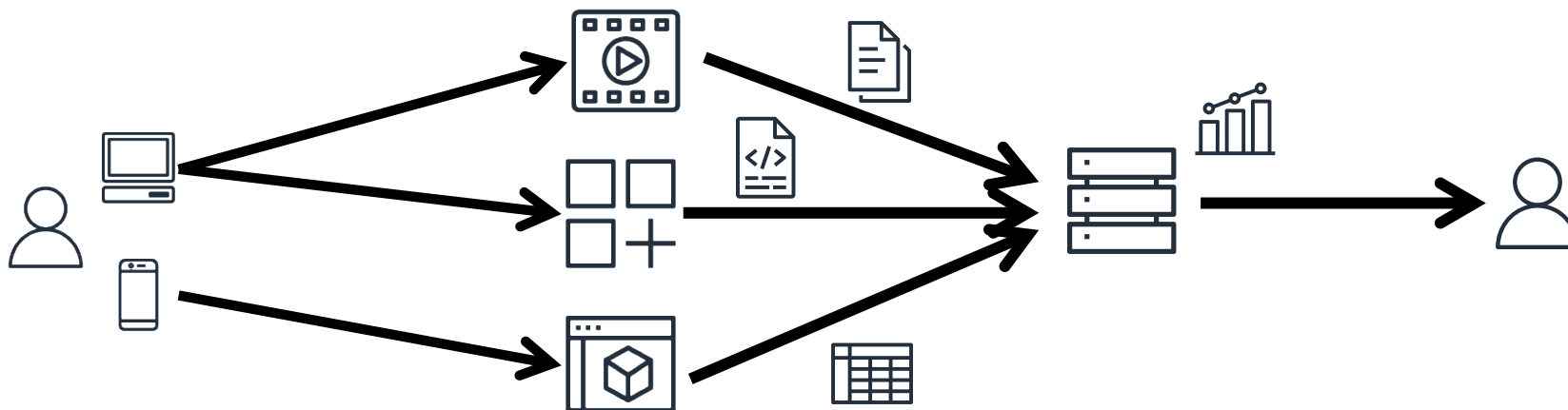


学認SPコミュニティアイデアノート6

ライフログの活用

- SPのログ収集によるライフログの収集と活用
- 学生指導(成績不振学生早期発見など)
- 安否確認(認証とサービスの利用に基づく安否確認)

授業への出席状況やLMSでの活動状況、学内外の様々なSPの利用履歴から、学業に問題を抱えている学生を早期に特定。これにより、適切なタイミングでアドバイザーやカウンセラーが介入し学業をサポート。



まとめ・お願い

認証が必要となるサービスは、今後増加し多様化することが予想される



認証が必要な SP は学認に対応可能



SPをより発展させるために、
幅広い方々のSPコミュニティへの協力をお願いします